

平成 27 年 1 月 19 日

学校・学校図書館 関係者の皆様へ

一般社団法人 日本書籍出版協会 理事長
東京国際ブックフェア実行委員長
相賀 昌宏



東京国際ブックフェア（後援：文部科学省） 見学ツアーのご案内
本展を読書推進の場として、ぜひご活用ください

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

来る 2015 年 7 月 1 日（水）～4 日（土）の 4 日間、東京ビッグサイトにおいて、第 22 回 東京国際ブックフェア（TIBF）を開催いたします。1994 年にスタートした本展は年々発展、前回は世界 20 カ国から 1,526 社（同時開催展含む）が出展するアジアを代表するブックフェアに成長しております。また本展は、中学校・高等学校の教職員や司書の方はもちろん、多数の一般読者にもご来場いただき、読書推進の場としても定着してまいりました。

私どもといたしましては、世界中の書籍と出版人が一堂に集まる TIBF を、学校教育においてさらに積極的にご活用いただきたいと考えております。つきましては、学校の皆様に、下記のように TIBF をご活用いただきたく、ここに、ご提案させていただく次第でございます。

- 図書委員（生徒）を伴ってご来場いただき、選書や、書籍・読書への関心をさらに高める場としてご活用いただく。
- 学級単位、学校単位で、TIBF を「校外学習」「職業体験（出版業界への）」などの場としてご活用いただく。（学校から東京ビッグサイトへの交通手段等については、下記事務局とご相談下さい。）

実際、昨年 7 月の東京国際ブックフェアにおきましては、23 の公立・私立の中学・高校の図書委員および担当司書の皆様に見学ツアーを実施していただき、合計 237 名が参加されました。参加生徒からは「楽しみながら本を知ることができた」「出版という仕事に興味を持った」「海外の出版物に触れることができる貴重な場だった」などの声があり、「読書」のみならず仕事としての「出版」にも興味を持っていただくことができました。（※次頁以降の資料をご参照ください。）ご興味のある方、詳細を相談されたい方は下記の返信用紙をご利用いただき、FAX にて事務局までご連絡くださいますようお願い申し上げます。皆様が本展をご活用くださいますことを心より願っております。

敬具

FAX 返信先：03-3344-2400

- 登録された方には、今後、DM や電子メールなどにより、弊社の展示会・セミナーの開催案内をさせていただきます。
- 弊社は個人情報について細心の注意を払っています。弊社の方針はホームページ(<http://www.reedexpo.co.jp>)をご覧ください。

貴校名：

氏名：

所属・役職：

TEL：

FAX：

E-mail：

ご住所：〒

【ご連絡先】東京国際ブックフェア事務局／リード エグジビション ジャパン株式会社内 担当：平松・五十嵐
住所：〒163-0570 東京都新宿区西新宿 1-26-2 新宿野村ビル 18F TEL：03-3349-8507 FAX：03-3344-2400
Eメール：tibf@reedexpo.co.jp 公式ホームページ：www.bookfair.jp

②

第22回 東京国際ブックフェア 開催要項

1. 名称 第22回 東京国際ブックフェア
(英文標記 22nd Tokyo International Book Fair、略称 TIBF)
2. 会期 平成27年7月1日(水)～7月4日(土) 午前10時～午後6時
(3日(金)・4日(土)は一般公開日)
3. 会場 東京ビッグサイト 西展示棟(東京国際展示場、東京・有明)
4. 主催 東京国際ブックフェア実行委員会※
リード エグジビション ジャパン株式会社
※東京国際ブックフェア実行委員会 構成団体
(一社) 日本書籍出版協会 / (一社) 日本雑誌協会 / (一社) 日本出版取次協会
日本書店商業組合連合会 / (一社) 出版文化国際交流会
(公社) 読書推進運動協議会 / 日本洋書協会
5. 後援 文部科学省、外務省、経済産業省、(一社) 日本新聞協会、日本製紙連合会、
(公社) 日本図書館協会、(公社) 全国学校図書館協議会、
(一社) 日本印刷産業連合会、(一社) 日本民間放送連盟など
6. 同時開催 第19回 国際 電子出版 EXPO など
7. 出展予定社 出版社など 470社 (※同時開催展を含む全体の社数は、1,850社)
8. 来場者数 70,000名 (※同時開催展を含む見込み数)
9. 展示内容 一般図書、人文・社会科学書、自然科学書、児童書、雑誌、コミック、海外出版物等
10. 併催イベント 基調講演、特別講演、読書推進セミナー、専門セミナー、各種シンポジウム、
作家によるサイン会・トークショー、出展社による公開セミナー、
洋書バーゲンコーナー、造本装幀コンクールなどを予定。
11. 入場対象者 書店、小売店、取次会社、出版業界関係者、学校・図書館、
専門家・法人ユーザー、一般読者など

以上

第21回 東京国際ブックフェアにおける 学校による見学ツアー 実施報告

- 日 程 : 2014年7月4日(金)、5日(土)
- 会 場 : 東京国際ブックフェア会場内
- 参加者 : 23の中学・高校から計237人(生徒195人、引率者42人)

前回参加校

<中学校・中高>

- 杉並区立荻窪中学校 ● 中野区立第八中学校 ● 恵泉女学園(中・高)
- 淑徳巣鴨中学高等学校

<高校>

- 都立飛鳥高等学校 ● 郁文館グローバル高等学校
- 日本ウェルネス高等学校「一休寺子屋」 ● 都立大田桜台高等学校 ● 学習院高等科
- 都立国立高等学校 ● 都立駒場高等学校 ● 都立産業技術高等専門学校
- 都立芝商業高等学校 ● 学校法人 シュタイナー学園(高校) ● 都立田無高等学校
- 都立多摩科学技術高校 ● 東海大学付属高輪台高等学校 ● 中村高等学校
- 都立晴海総合高校 ● 都立府中東高等学校 ● 都立武蔵村山高等学校
- 市立横須賀総合高校 ● 都立六本木高等学校

■ 見学の流れ

- ① 東京国際ブックフェア 受付前集合
- ② ヤングアダルト出版会、TIBF事務局による歓迎のあいさつ
- ③ 会場見学(ヤングアダルト出版会とTIBF事務局の引率)
小学館、講談社、KADOKAWA、河出書房新社、マレーシア大使館、サウジアラビア王国大使館、大韓出版文化協会、凸版印刷、大日本印刷ブースなど
- ④ 自由見学

■ 参加した生徒の声(アンケートより抜粋) :

- ・ 各ブースがさまざまに工夫をこらして売り出していて、普段興味のない分野の本にも興味を持つようになった。帰るときにはもっとたくさん本を読もうと思った。将来は活字と向き合う仕事につきたい。
- ・ 翻訳された日本の本、サウジアラビアの特殊な文字など、その文化だけでなく日本とのつながりを発見することもでき、書籍による世界とのつながりを再認識できました。
- ・ 本についてさまざまなことを知ることができてすごく楽しかったです。一度は本屋さんで働いてみたいと思った。
- ・ 雑誌が出版されるまでの手順やフォントの解説など、普段ではあまり知る機会もないので勉強になった。来年も行きたいです。
- ・ 外国のブースでは、その国の言語で書かれた本やその国で人気のある本などが紹介されていて面白かった。
- ・ それぞれの出版社に“カラー”があり、ラインナップを見ているだけでも出版で働く方々が目指しているもの、情熱を垣間見ることができて貴重な経験になった。(司書)

■ 会場、見学の様子 : 次項参照

東京国際ブックフェア会場（東京ビッグサイト）の様子



前回（2014年）は、20カ国から、1,526社が出展、62,855名が来場しました。アジア最大規模の展示会です。

東京国際ブックフェア会場見学の様子（2014年7月4日・5日）



見学前の説明



河出書房新社ブースにて



サウジアラビアの書籍と文化の紹介を受ける様子



2014年テーマ国 マレーシアパビリオンにて



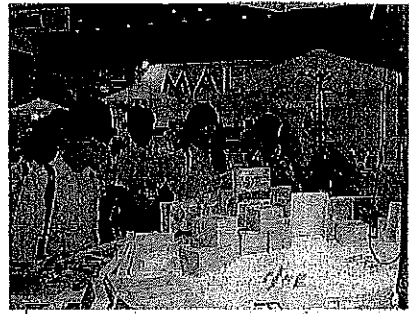
マレーシアの書籍について質問する様子



大日本印刷ブースにて

23校の中高生が参加

見学ツアーで



テーマ国であるマレーシアブース（上）では、同国の様々な出版物を手にとり、文化に触れた。（右）大日本印刷では、電子書籍のリーダーを実際に試す

予想以上の好反応
来年の参加も視野に

今回ツアーに初めて参加した淑徳巣鴨中学高等学校の図書館主任・渡辺聡教諭は「定期試験中にも関わらず、図書館員の名を含む1名が参加を希望した。電子図書などの新しいジャンルや、動く絵本の種類が目玉のブース（講談社）などがあり、生徒からも予想以上に面白かった、という声があがった。来年もぜひ参加したい」と話す。

国際交流のきっかけにも

国内最大規模の書籍の展示会「第21回 東京国際ブックフェア」が7月2日～5日、都内で開催された（主催＝東京国際ブックフェア実行委員会、リードエグジジブションジャパン）。会場では4、5日の2日間、ヤングアダルト出版会（以下、YA出版会）の引率による、中高生の見学ツアーを実施。23の公立・私立の中学校と高校の生徒らが参加した。

YA出版会は「13歳からの読書」をキャッチフレーズに、ヤングアダルト（アメリカで13～19歳の世代を指す言葉）の世代の読書環境作を支援。国内外の最新情報や、中高生は初めて今回の

徒たちは実際の本を手にとり、説明を受けた。電子書籍を展示した大日本印刷や凸版印刷、染天、製本を手掛ける渋谷文楽閣、国内出版社、海外出版社のブースを駆け大ベストセラー漫画「カンボジ・ボーイ」村屋の図版や世界の宗教について、絵本など、33冊の本を購入してきた」と取り組むを語った。

教育家庭新聞 2014年7月21日掲載

毎日新聞 2014年7月10日掲載

Network

「電子書籍の、動く絵本がおもしろかった」など、感想を述べた。団体での見学終了後は、グループごとに興味のあるブースを見て回った。

情報ネットワーク

各国の本から電子出版まで幅広く 東京国際ブックフェア 23校の中・高生が見学

7月2日から5日まで、東京都江東区の東京ビックサイトで、第21回東京国際ブックフェアが開催された。会期後半の4日、5日に23校の中・高生が学校単位で来場し、同フェアを見学した。

本フェアは、出版業界におけるビジネスの側面と、一般向けの「読書推進」の二つの性質を持つが、この「読書推進」の場としての価値を高めるため、前回、学校

単位の見学は1校だったが、今回は大幅に増加した。

希望校が多数のため、学校ごとに集合時間を決め、係の案内で会場を見学した。参加者は各校4～19人で、図書館員や本に関心のある生徒、教諭、学校司書など。

今年のテーマ国、マレーシアのブースでは、民俗音楽の生演奏を聴いたり、マレーシアの絵本や写真集などに興味を示していた。また、凸版印刷のブースでは、電子書籍にふれ、読みやすい書体などの説明を聞いた。そのほか、児童書ブースや、DVD付き図鑑を紹介しているブースなどを見学した。

参加した都内の中学校の生徒は、「図鑑を作るのに、7年もかかっているのに驚いた」



マレーシアのブースを見学する生徒

国内最大の本の見本市
中高生20人超見学に
23校がツアー参加

東京ビックサイトで開かれた国内最大の本の見本市「第21回東京国際ブックフェア」(2、3、5日)の中高生向けの見学ツアーに、都内の23校から計200人以上が参加した。活字離れが進む中、子供たちが編集者や本の作り手たちと接する貴重な機会になった。



見学ツアーは、読書推進に加え、出版業界の魅力を伝えることを目的に昨年始まった。今年6月にリニューアルされた河出書房新社の書籍展示ブースが「ただの展示会ではなく、子供たちが本は楽しい」と思ってもらいたいという思いで、昨年とは異なり、魅力を生かしたい」と呼び掛けていたが、昨年は都立高1校だけの参加にとどまった。

今年は一転して、「読書教育の場として活用したい」と参加校が急増。ツアーでは、20人程度のグループに分かれて、国内外から出版された出版社などのブースを見学。印刷技術や本ができるまでの工程の解説に聞き入っていたと写真。

案内役を務めた同社の岡垣重男事務は「修学旅行のコースに組み込んでほしい」と、自らブックフェアを訪れるようになってほしい」と期待している。

【須藤唯哉、写真も】